

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-012445

(43)Date of publication of application : 15.01.2003

(51)Int.Cl.

A61K 7/00

A61K 7/48

(21)Application number : 2001-192413

(71)Applicant : KANEBO LTD

(22)Date of filing : 26.06.2001

(72)Inventor : HAYASE MOTOI

(54) COSMETIC

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a cosmetic having excellent stability and excellent touch.

SOLUTION: This cosmetic is characterized by containing (A) one or more selected from the group consisting of chlorophyll, lactobacillus culture solutions, yeast culture solutions, and extracts extracted from plants, algae or microbial bodies, and (B) a lipopeptide originated from a microorganism.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(51)Int.Cl.⁷識別記号F Iテームト（参考）
A 6 1 K 7/00A 6 1 K 7/00K 4 C 0 8 3
7/487/48

審査請求 未請求 請求項の数3 O L （全 6 頁）

(21)出願番号	特願2001－192413(P2001－192413)	(71)出願人	000000952 カネボウ株式会社 東京都墨田区墨田五丁目17番4号
(22)出願日	平成13年6月26日(2001.6.26)	(72)発明者	早瀬 基 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 カ ネボウ株式会社化粧品研究所内
		最終頁に続く	

(54)【発明の名称】 化粧品

(57)【要約】
【目的】安定性及び使用感に優れた化粧料を提供する。
【構成】（A）植物、海藻又は菌体より抽出された抽出物、葉緑素、乳酸菌培養液、並びに酵母培養液からなる群より選ばれる1種又は2種以上と、（B）微生物由来のリポペプチド類とを含有することを特徴とする化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (A) 植物、海藻又は菌体より抽出された抽出物、葉緑素、乳酸菌培養液、並びに酵母培養液からなる群より選ばれる1種又は2種以上と、(B) 微生物由来のリポペプチド類とを含有することを特徴とする化粧料。

【請求項2】 植物、海藻又は菌体が、アルニカ、アロエ、アルテア、アンズ、アーモンド、アマチャ、イラクサ、イチゴ、ウイキョウ、ウコン、ウーロン茶、エイジツ、エチナシ、エンメイソウ、オランダカラシ、オウバク、オウゴン、オウレン、オトギリソウ、オレンジ、カノコソウ、カンゾウ葉、火棘、カミツレ、カロット、甘草、キウイ、キナ、ゴボウ、キュウカンバー、クワ、ゲンノショウコ、コンフリー、ゲットウヨウ、サルビア、サンザシ、サイシン、サイタイ、シモツケソウ、サンシシ、ジュウヤク、シチヘンゲ、ショウブ根、シコン、シソ、シラカバ、シャクヤク、ジオウ、センキュウ、スギナ、セイヨウキズタ、セージ、センブリ、ダイズ、タイム、タマリンド、藤茶、茶、椿種子、茶の実、チョウジ、チンピ、トウキ、トウニン、トウヒ、トマト、ニワトコ、ヒノキ、ベニバナ、ラベンダー、レタス、ローズヒップ、ボタンボウフウ、パプアメース、リュウキュウヨモギ、トウキンセンカ、ニンニク、ノバラ、ニンジン、ハイビスカス、パセリ、ピーカンナッツ、ビャクダン、レンゲソウ、エーデルワイス、ビワ葉、ブドウ種子、ボタンピ、マイカイカ、メリッサ、モモ、桃の葉、ローズマリー、ユキノシタ、ムクロジ、ヨモギ、ユーカリ、マルメロ、ヘチマ、ゼニアオイ、リンゴ、グレープフルーツ、ハウチワマメ、プルーン、ライム、ユズ、菩提樹、木苺、クララ、小麦胚芽、インチンコウ、シラユリ、ホップ、ペパーミント、ドクダミ、ヨクイニン、ブクリョウ、ブドウ、タチジャコウソウ、マロニエ、バラ、ショウガ、レモン、ゲンチアナ、キズタ、マツ、緑藻、紅藻、褐藻、シイタケ、クリタケ、冬虫夏草、酵母、オリーブ葉、カシス、シモンからなる群より選ばれる1種又は2種以上であることを特徴とする請求項1記載の化粧料。

【請求項3】 (A) 成分の配合量が乾燥固形分として0.0001～5質量%であり、(B) 成分の配合量が0.005～5質量%であることを特徴とする請求項1又は2記載の化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は化粧料に関する。更に詳しくは、安定性及び使用感に優れた化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】化粧料には、その効能、塗布後の感触、外観、香り等の観点から様々な植物、海藻又は菌体由来の抽出物や、菌体の培養液が配合される。しかしながら

植物抽出物、菌体培養液等は製剤中で澱、凝集等を生ずることが多いため、これを防ぐ目的でポリオキシエチレン硬化ヒマシ油等の水溶性界面活性剤が併用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながらこれらの水溶性界面活性剤は経時で分解し、ホルマリン等の有害物質を生じる可能性があるため、これらを用いずに植物、海藻又は菌体由来の抽出物や、菌体の培養液を配合し、且つ安定性を確保し使用感に優れた化粧料の開発が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために、本発明の化粧料は、植物、海藻又は菌体より抽出された抽出物、葉緑素、乳酸菌培養液、並びに酵母培養液からなる群より選ばれる1種又は2種以上と、微生物由来のリポペプチド類とを含有することを特徴とするものである。

【0005】また本発明の化粧料は、植物、海藻又は菌体より抽出された抽出物、葉緑素、乳酸菌培養液、並びに酵母培養液からなる群より選ばれる1種又は2種以上を乾燥固形分として0.0001～5質量%、及び微生物由来のリポペプチド類0.005～5質量%を含有することを特徴とするものである。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、発明の実施の形態について詳述する。

【0007】本発明で用いられる植物、海藻又は菌体は、特に限定されないが、例えば、アルニカ、アロエ、アルテア、アンズ、アーモンド、アマチャ、イラクサ、イチゴ、ウイキョウ、ウコン、ウーロン茶、エイジツ、エチナシ、エンメイソウ、オランダカラシ、オウバク、オウゴン、オウレン、オトギリソウ、オレンジ、カノコソウ、カンゾウ葉、火棘、カミツレ、カロット、甘草、キウイ、キナ、ゴボウ、キュウカンバー、クワ、ゲンノショウコ、コンフリー、ゲットウヨウ、サルビア、サンザシ、サイシン、サイタイ、シモツケソウ、サンシシ、ジュウヤク、シチヘンゲ、ショウブ根、シコン、シソ、シラカバ、シャクヤク、ジオウ、センキュウ、スギナ、セイヨウキズタ、セージ、センブリ、ダイズ、タイム、タマリンド、藤茶、茶、椿種子、茶の実、チョウジ、チンピ、トウキ、トウニン、トウヒ、トマト、ニワトコ、ヒノキ、ベニバナ、ラベンダー、レタス、ローズヒップ、ボタンボウフウ、パプアメース、リュウキュウヨモギ、トウキンセンカ、ニンニク、ノバラ、ニンジン、ハイビスカス、パセリ、ピーカンナッツ、ビャクダン、レンゲソウ、エーデルワイス、ビワ葉、ブドウ種子、ボタンピ、マイカイカ、メリッサ、モモ、桃の葉、ローズマリー、ユキノシタ、ムクロジ、ヨモギ、ユーカリ、マルメロ、ヘチマ、ゼニアオイ、リンゴ、グレープフルー

ツ、ハウチワマメ、プルーン、ライム、ユズ、菩提樹、木苺、クララ、小麦胚芽、インゲンコウ、シラユリ、ホップ、ペパーミント、ドクダミ、ヨクイニン、ブクリョウ、ブドウ、タチジャコウソウ、マロニエ、バラ、ショウガ、レモン、ゲンチアナ、キズタ、マツ、緑藻、紅藻、褐藻、シイタケ、クリタケ、冬虫夏草、酵母、オリーブ葉、カシス、シモン等が挙げられる。

【0008】本発明で用いられる葉緑素は、化粧品原料として公知の物質である。

【0009】本発明の植物、海藻又は菌体より抽出された抽出物、及び葉緑素は、植物、海藻又は菌体の各種部位（全草、地上部、花、果実、果皮、葉、枝、幹、茎、樹皮、根茎、根皮、塊茎、根、種子、全藻、孢子葉、成実葉、菌核、子実体、菌糸体等）をそのまま又は粉碎後、溶媒で抽出したものである。

【0010】抽出溶媒は、水、及びアルコール類（例えば、メタノール、無水エタノール、エタノール等の低級アルコール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の多価アルコール）等の水溶性有機溶媒を、1種単独又は2種以上任意に組み合わせて使用することができる。

【0011】本発明の植物、海藻又は菌体より抽出された抽出物は、配合する化粧料の剤型・形態により乾燥、濃縮、又は希釈等を任意に行い調整すれば良い。

【0012】尚、製造方法は特に制限されるものはないが、通常、常温、常圧下での溶媒の沸点の範囲であれば良く、抽出後は濾過又はイオン交換樹脂を用い、吸着・脱色・精製して溶液状、ペースト状、ゲル状、粉末状とすれば良い。更に多くの場合は、そのままの状態で行うことができるが、必要ならば、その効果に影響のない範囲で更に脱臭、脱色等の精製処理を加えても良く、脱臭・脱色等の精製処理手段としては、活性炭カラム等を用いれば良く、抽出物質により一般的に適用される通常の手段を任意に選択して行えば良い。

【0013】本発明で用いられる乳酸菌培養液及び酵母培養液は、化粧品原料として公知の物質であり、必要に応じて遠心分離、濾過等により固形物を除去したものや加熱等により殺菌処理を行ったものも用いることができる。また、培養液に防腐剤として多価アルコールを加えた後、澱びきしたのもも用いることができる。

【0014】本発明で用いられる微生物由来のリポペプチド類は、化粧品原料として公知の物質であり、特開2000-327591号公報に記載されているような、バチルス属微生物等原核生物に由来したリポペプチド化合物を使用することが好ましい。微生物由来のリポペプチド類としては、例えば、サーファクチン [Biochem. Biophys. Res. Commun., 31:488-494, (1968)]、プリパスタチン [J. Antibiot., Vol. 39, No. 6, 745-761, (1986)]、アースロファクチン [J. Bacteriol., Vol. 175, No. 20, 6459-6466, (1993)]、イチュリン [Biochemistry, Vol. 17, No. 1

9, 3992-3996, (1978)] セラウェッチン [J. Bacteriol., Vol. 174, No. 6, 1769-1772, (1992)]、及びそれらの構成単位であるアミノ酸由来のカルボキシル基の金属塩（ナトリウム、カリウム、リチウム等のアルカリ金属塩、カルシウム、マグネシウム等のアルカリ土類金属塩等）や有機アンモニウム塩（トリメチルアミン塩、トリエチルアミン塩、トリブチルアミン塩、モノエタノールアミン塩、ジエタノールアミン塩、トリエタノールアミン塩、リジン塩、アルギニン塩、コリン塩等）等が挙げられ、サーファクチンナトリウム（商品名：アミノフェクト、昭和電工社製）を使用することが特に好ましい。

【0015】本発明で用いられる（A）植物、海藻又は菌体より抽出された抽出物、葉緑素、乳酸菌培養液、並びに酵母培養液からなる群より選ばれる1種又は2種以上の配合量は、化粧料の総量を基準として、乾燥固形分換算で0.0001～5質量%（以下、%と略記する）であることが好ましく、且つ（B）微生物由来のリポペプチド類の配合量が、化粧料の総量を基準として0.005～5%であることが好ましい。これらの各々の配合量の範囲内で配合すると、特に安定性及び使用感に優れた化粧料を得ることができる。

【0016】本発明の化粧料は、常法に従って製造することができる。また、本発明の化粧料は、一般の皮膚化粧料に限定されるものではなく、医薬部外品、指定医薬部外品、外用医薬品等を包含するものであり、その形態も目的に応じて任意に選択することができる。すなわち、化粧水、乳液類、クリーム類、パック類、化粧油類、マッサージ類、サンスクリーン、化粧下地、ファンデーション、リップクリーム、クレンジング料等に適用することができる。また剤型についても特に制限はなく、固形状、ペースト状、ジェル状、ムース状、粉末状、溶液状、多層状、可溶化系、乳化系、粉末分散系等とすることができる。

【0017】尚、本発明の化粧料には上記の構成成分の他に、タール系色素、酸化鉄等の着色顔料、パラベン、フェノキシエタノール等の防腐剤、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、環状シリコン等のシリコン油、パラフィン、流動パラフィン、ワセリン、オレフィンオリゴマー、スクワラン等の炭化水素類、オリーブスクワラン、米スクワラン、米胚芽油、ホホバ油、ヒマシ油、紅花油、オリーブ油、マカデミアナッツ油、ヒマワリ油等の植物油、ミツロウ、モクロウ、カルナバロウ等のロウ類、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸セチル、イソステアリン酸イソステアリル、ミリスチン酸イソプロピル等のエステル油、エタノール等の低級アルコール類、セタノール、ベヘニルアルコール、ステアリルアルコール、長鎖分岐脂肪族アルコール等の高級アルコール類、コレステロール、フィトステロール、分岐脂肪酸コレステロールエステル、マカデミアナッツ脂肪酸フィトステリルエステル等のステロ

ール類及びその誘導体、硬化油等の加工油類、ステアリン酸、ミリスチン酸、イソステアリン酸、オレイン酸、イソ型長鎖脂肪酸、アンテイソ型長鎖脂肪酸等の高級脂肪酸、リモネン、水素添加ビスボロール等のテルペン類、トリカプリル・カプリン酸グリセリル、2-エチルヘキサン酸グリセリル、トリイソ型長鎖脂肪酸グリセリル、トリパルミチン酸グリセリル等のトリグリセリド、セチル硫酸ナトリウム、N-ステアロイル-L-グルタミン酸塩等の陰イオン界面活性剤、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン多価アルコール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、多価アルコール脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、蔗糖脂肪酸エステル等の非イオン界面活性剤、テトラアルキルアンモニウム塩等の陽イオン界面活性剤、ベタイン型、スルホベタイン型、スルホアミノ酸型等の両性界面活性剤、レシチン、リゾフォスファチジルコリン、セラミド、セレブロシド等の天然系界面活性剤、ポリエーテル変性シリコーン、アミノ変性シリコーン等のシリコーン系界面活性剤、酸化チタン、酸化亜鉛等の顔料、ジブチルヒドロキシトルエン等の抗酸化剤、塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、硫酸ナトリウム、硝酸カリウム等の無機塩類、クエン酸ナトリウム、酢酸カリウム、琥珀酸ナトリウム、アスパラギン酸ナトリウム、乳酸ナトリウム等の有機酸塩類、塩酸エタノールアミン、硝酸アンモニウム、塩酸アルギニン等の塩類、エデト酸等のキレート剤、キサンタンガム、カルボキシビニルポリマー、カラギーナン、ペクチン、アルキル変性カルボキシビニルポリマー、寒天等の増粘剤、水酸化カリウム、ジイソプロパノールアミン、トリエタノールアミン等の中和剤、ヒアルロン酸、コラーゲン等の生体高分子、ヒドロキシメトキシベンゾフェノンスルホン酸塩等の紫外線吸収剤、ジプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、プロピレングリコール、ソル*

* ビトール、マルビトール、ジグリセリン、ラフィノース、ヘキシレングリコール等の多価アルコール等が挙げられるがこれに限定されるものではない。

【0018】

【実施例】以下、実施例に基づいて本発明を詳細に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。尚、配合量は全て質量%である。

【0019】実施例に記載の試験方法は下記の通りである。

10 【0020】保存安定性試験

実施例及び比較例の試料をガラスビンに入れ、0℃の恒温槽にて1ヶ月保管し、室温に戻した後に、外観を観察し、変色や沈殿等が認められる場合を×、僅かに変色や沈殿等が認められる場合を△、外観の変化が認められない場合を○で表した。

【0021】官能試験

成人女性パネラー20名の顔面に実施例及び比較例の試料を塗布し、べたつき、ぬるつきを感じなかった人数にて評価した。

20 【0022】実施例1～14、比較例1～12

表1、2に記載の組成で下記の調製法に従い化粧水を調製し、前記の試験を実施した。

【0023】(1)調製法

各成分を室温にて均一に溶解した後、混合攪拌分散し、次いで容器に充填する。

【0024】(2)特性

前記の試験結果を表1及び表2に併せて示す。この表に示すごとく、本発明の実施例1～14の化粧水は、微生物由来のリポペプチド類であるサーファクチンナトリウムを含有しない比較例1～12の化粧水に比べ、使用感に優れ、更に外観上優れた保存安定性を示した。

【0025】

【表1】

	実施例													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
オウバクエキス	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
オレンジエキス	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
チョウジエキス	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
梅エキス	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
ウイキョウエキス	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
酵母エキス	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
シオウエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
ニンジンエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
茶の葉エキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
オリーブ葉エキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
オトギリソウエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
リュウキュウヨモギエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
エタノール	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
グリセリン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
パラオキシ安息香酸メチル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
N-メチルセリン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
ナイアシナミド	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
サーファクチンナトリウム	0.001	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
保存安定性試験結果	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
官能試験結果	18	8	19	20	19	20	20	18	20	20	19	20	19	20

【0026】

【表2】

	比較例											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
オウバクエキス	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
オレンジエキス	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
チョウジエキス	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
褐藻エキス	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
ウイキョウエキス	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
酵母エキス	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
ジオウエキス	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
ニンジンエキス	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
茶の実エキス	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
オリーブ葉エキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
オトギリソウエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
リュウキュウヨモギエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
エタノール	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
グリセリン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
パラオキシ安息香酸メチル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
N-メチルセリン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
ナイアシンアミド	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
サーファクチンナトリウム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
保存安定性試験結果	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
官能試験結果	18	18	18	20	19	18	18	19	18	20	19	19

【0027】実施例15～28、比較例13～24

表3、4に記載の組成で下記の調製法に従い美容液を調製し、前記の試験を実施した。

【0028】(1) 調製法

各成分をそれぞれ混合溶解し、攪拌して、美容液を調製した。

【0029】(2) 特性

* 前記の試験結果を表3及び表4に併せて示す。この表に示すごとく、本発明の実施例15～28の美容液は、微生物由来のリポペプチド類であるサーファクチンナトリウムを含有しない比較例13～24の美容液に比べ、使用感に優れ、更に外観上優れた保存安定性を示した。

【0030】

* 【表3】

	実施例													
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
スギナ抽出液	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クワタエキス	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
乳酸菌培養液	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水溶性葉緑素	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
火絨抽出物	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
ハイビスカスエキス	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
冬虫夏草エキス	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
ハウチワマメエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
リュウキュウヨモギエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
シラユリエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
カシスエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
ユズエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
1,3-ブチレングリコール	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
ジプロピレングリコール	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
サーファクチンナトリウム	0.001	8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
フェノキシエタノール	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ベクセン	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
キサンタンガム	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
クエン酸ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
シイソプロピルアミンジクロロ酢酸	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
エデト酸三ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
MPC *1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
γ-アミノ-β-ヒドロキシ酪酸	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
ヒアルロン酸ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
グリチルリチン酸ジカリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
香料	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
保存安定性試験結果	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
官能試験結果	18	7	18	20	19	20	20	19	19	20	20	19	20	20

*1 日本油脂社製 Lipidure-PMB(Ph10)

【0031】

【表4】

	比較例											
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
スギナ抽出液	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クリタケエキス	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
乳酸菌培養液	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水溶性葉緑素	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
火棘抽出物	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
ハイビスカスエキス	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
冬虫夏草エキス	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
ハウチワマメエキス	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
リュウキュウヨモギエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
シラユリエクス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
カシスエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
ユズエキス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
1,3-ブチレングリコール	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
ジプロピレングリコール	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
サーファクチンナトリウム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
フェノキシエタノール	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ベクチン	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
キサンタンガム	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
クエン酸ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ジイソプロピルアミンジクロロ酢酸	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
エデト酸二ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
MPC *1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
γ-アミノ-β-ヒドロキシ酪酸	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
ヒアルロン酸ナトリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
グリチルリチン酸ジカリウム	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
香料	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
保存安定性試験結果	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
官能試験結果	17	18	18	20	20	18	19	19	18	19	19	20

*1 日本油脂社製 Lipidure-PMB(Ph10)

【0032】尚、いずれの実施例の化粧料を使用した場合にも、皮膚に発赤、炎症、その他副作用と考えられる症状は発現せず、本発明に係る化粧料は安全性にも優れることが明らかであった。

*【0033】
【発明の効果】以上記載のごとく、本発明が、安定性及び使用感に優れた化粧料を提供することは明らかである。

*30

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA031 AA032 AA111 AA112
AC102 AC122 AC152 AC302
AC482 AC622 AC812 AC852
AD332 AD352 AD372 AD532
BB04 BB05 BB06 BB07 BB13
BB23 BB24 BB43 BB44 BB45
BB46 BB47 BB48 CC04 CC05
CC06 CC07 CC12 CC13 CC19
CC29 DD05 DD08 DD11 DD12
DD17 DD21 DD22 DD23 DD27
DD28 DD30 DD31 DD38 DD39
DD41 EE01 EE03 EE06 EE10